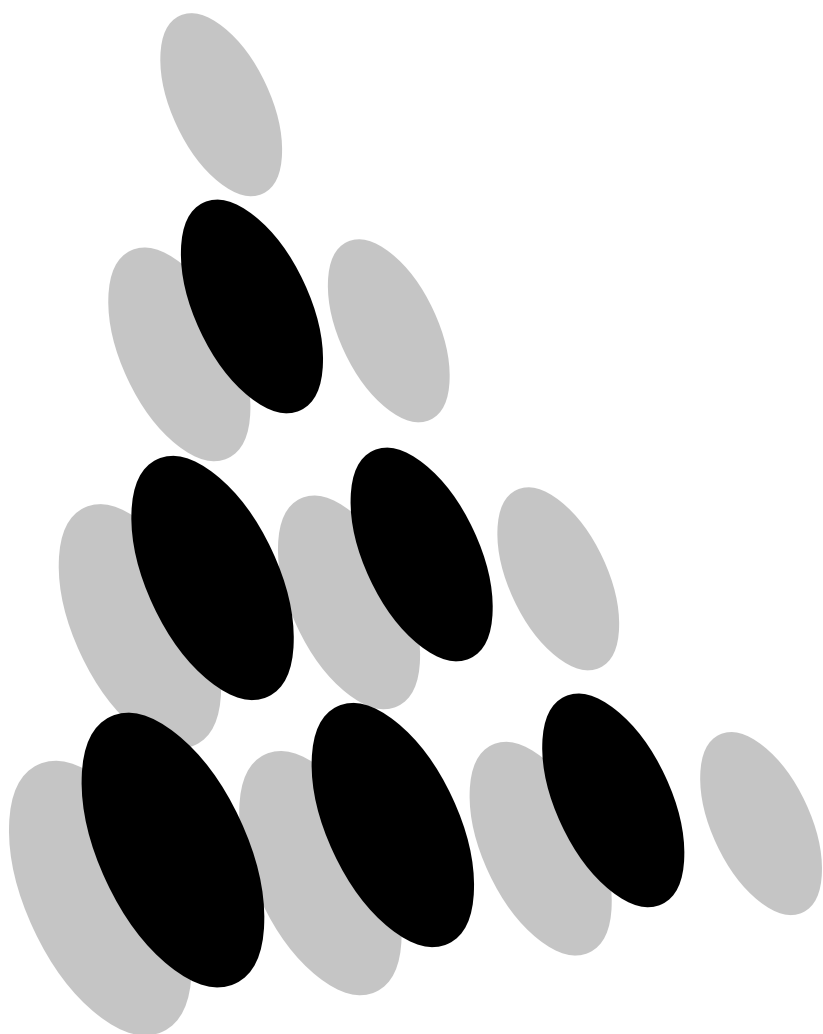


SERVIS™ Drawer

モニタドア
[FD-M000AT]
[FD-M000AT/W]

取扱説明書



本装置は、クラス A 情報技術装置です。
本装置を家庭環境で使用すると電磁妨害を引き起こすことがあります。
この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されていない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

その他の製品名等の固有名詞は、各社の登録商標または商標です。

目次

1.はじめに	2
1.1 表記規則	2
1.2 梱包品の確認	3
2.重要なお知らせ	4
2.1 安全性	4
2.2 廃棄について	6
2.3 本装置の運搬	6
3 取り付け	7
3.1 フロントブラケットの取り付け	7
3.2 ガイドレールの取り付け（タップありガイドレールの場合）	8
3.3 本製品の取り付け	9
3.4 4ポートKVMスイッチの組み込み	10
4.各部の名称と働き	12
4.1 全体図	12
5.ケーブルの接続と取り外し	14
5.1 ケーブルの接続	14
5.2 ケーブルの取り外し	14
5.3 4ポートKVMスイッチとの接続	15
6.操作	16
6.1 本製品の引き出し	17
6.2 モニタの調整	19
6.3 基本的な調整方法	20
6.4 解像度とリフレッシュレート	22
6.5 4ポートKVMスイッチをご使用の場合について	23
6.6 本製品の格納	24
6.7 本装置のお手入れ	25
7.技術仕様	26
8.トラブル対策	28
8.1 画面が表示されない	28
8.2 画面調節ができない	29
8.3 画面がおかしい	30

1.はじめに

このたびは、モニタドドア（以降、本製品または本装置と呼びます）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

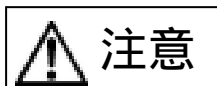
本製品をお使いになると、ラック作業空間の効率とサーバ切替機能が大幅に改善されます。また、コンパクト設計のスライドモジュールの採用で、従来のソリューションに比べてより広くなるスペースを別のコンポーネントに利用できます。

17型TFTモニタの解像度は1280×1024で、表示色は1,677万色です。

本製品に接続できるサーバはDOS/V（PC/AT互換）機対応コンピュータです。

1.1 表記規則

この説明書で使用している記号と文字の意味は次のとおりです。



- ・この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、及び物的損害（本製品またはサーバの損害など）が発生する可能性があることを示しています。



- ・この記号のあとの文書は補足説明、注釈、ヒントです。

文頭に数字（1，など）がある場合は、順序にしたがっておこなう必要がある操作を示しています。

参照する章のタイトルと用語を強調する場合は、カギ括弧（「」）で囲んでいます。

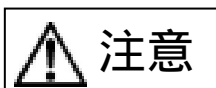
1.2 梱包品の確認

次のものが、梱包されていることをお確かめください。

本装置本体	×	1
100V 用電源ケーブル (2m)	×	1
電源ケーブル抜け防止用タイラップ	×	1
フロントブラケット	×	2
フロントブラケット取付けネジ	×	4
4ポート KVM スイッチ用 DC-DC ケーブル	×	1
4ポート KVM スイッチ取付けネジ	×	4
取扱説明書 (本書)	×	1
保証書	×	1

(保証書に必要な詳細がすべて記入されていることをお確かめください)

購入時の梱包箱および梱包品を保管しておくことをおすすめします。別の場所に移動するときに必要になることがあります。万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、お買い求めの販売店または弊社担当までお申し付けください。



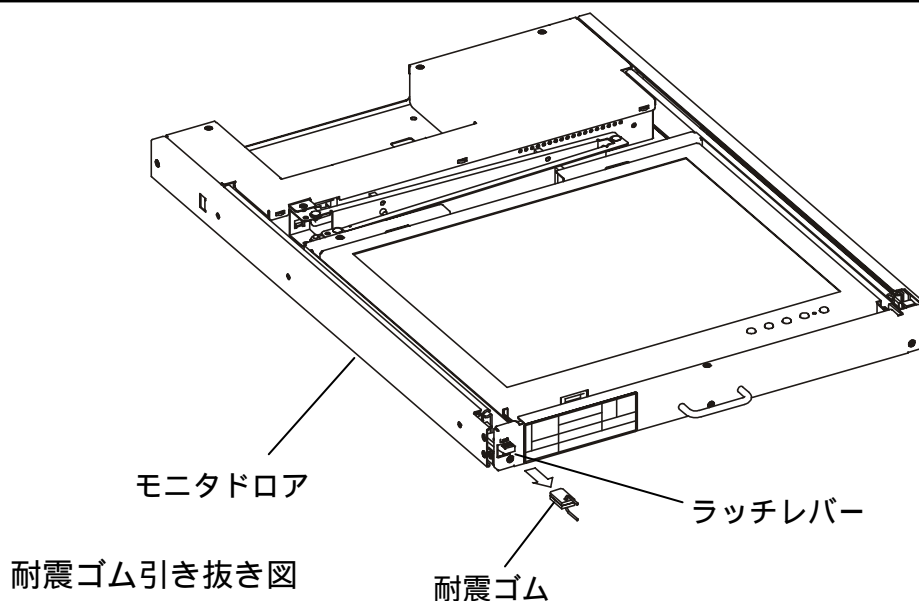
注意

「重要なお知らせ」の安全情報に注意してください。

開梱時は本体に損傷がないか、配送品を確認してください。
本装置前面左の耐震ゴムを引き抜いてください。

Point

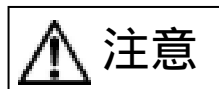
耐震ゴムは、ラック取り付け時やラックの移動中に本装置がスライドしないように差し込んであります。本装置をラックに取り付けた後も必要になることがありますので、必ず保管しておいてください。



2. 重要なお知らせ

この章には、本装置で作業する際に注意しなければならない、安全性に関する情報を記載しています。よくお読みのうえ、正しくご使用ください。

2.1 安全性



注意

安全上の注意

本装置は、事務オフィス環境で使用する電子事務用機器などの情報処理装置に関する安全規格に準拠しています。ご不明な点があれば、お買い求めの販売店または弊社担当に連絡してください。

本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の箱を使用してください。ただし、変形及び破損等がある箱は使用しないでください、本装置が破損する可能性があります。

本装置の取り付け中と使用前に「技術仕様」の環境条件についての記事と「取り付け」の記事をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

本装置を寒冷な環境から暖かい場所に移動すると、結露を生じることがあります。装置が完全に乾燥し、周囲温度とほぼ同じ温度になってからご使用してください。

地域の線路電圧が本装置の使用動作範囲内であることを確認してください。（「技術仕様」と本装置の型式銘板を参照してください）。

本装置の電源ケーブルは特別に認可されたものです。改造等は行わずにご使用ください。感電、短絡の原因になります。

本装置の電源ソケットまたはラックの電源コンセントの周辺は、プラグの抜き差しがすぐできるようにしてください。

ケーブルが損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続したり取り外したりするときは「取り付け」の該当部分を参照してください。

雷雨のときは、データケーブルを接続したり取り外したりしないでください。

本装置の内部に異物（ネックレスやクリップなど）や液体が入らないようにしてください。

緊急の場合（筐体、部品、またはケーブルの損傷、液体や異物の侵入など）は、ただちに装置からすべてのケーブルをはずして、お買い求めの販売店または担当保守員に連絡してください。

本装置を修理できるのは資格のある技術者だけです。資格のないユーザが本装置を開いたり誤った修理をおこなうと、感電や火災などの原因になることがあります。

ケーブルは強く引っ張らず、必ずコネクタ部を持って抜いてください。

体調の悪い状態でのキー打鍵や長時間の連続キー打鍵は避けてください。

濡れた手での使用は避けてください。

濡れた手でコネクタの抜き差しをしないでください。

本装置の上には、液体等入ったコップなど不要な物をおかないでください。

改造または修理をしないでください。

警告マーク（稲妻マークなど）が付いている部品（電源装置など）の分解、取りはずし、交換は、資格のある人以外はできません。

「モニタの調節」で指定されている解像度とリフレッシュレートしか設定できません。それ以外の設定を行うと、モニタが損傷することがあります。ご不明な点は、お買い求めの販売店または弊社担当にご連絡ください。

周辺機器用のデータケーブルは、干渉を防ぐために適切な絶縁処理が必要となります。線路電圧を切断するときには、接地電源コンセントから電源プラグを抜きます。

サーバを清掃するときは「本装置のお手入れ」にしたがってください。

本説明書は本装置とともに大切に保管してください。本装置を第三者に譲渡する場合は、本説明書も譲渡してください。

本装置を引き出した状態で、脚立代わりに使用したり、よりかかったりすると、ラックが転倒する可能性があるので危険ですので、おやめください。

本装置を引き出した状態では、本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。本装置を使用しない場合や本装置以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本装置をラック内に格納することを推奨します。

本製品には有寿命部品（LCDなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

本製品を安定した状態でご使用になれる期間（耐用年数）は5年が目安です。

1日8時間で月当たり200時間動作、使用環境が25℃を想定した場合の目安です。ただし、有寿命部品を除きます。



注意

ご使用上のご注意

ご使用の前に [ご使用上のご注意] をよくお読みの上、正しくご使用ください。ここに記載の注意事項はユーザ様への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので、必ずお守りください。

各コネクタの抜き差しはサーバの電源がOFFになっていることを確認してから行ってください。また、静電気にも充分注意し放電してから行ってください。静電気が貯まったままや、電源がONのまま抜き差しすると、サーバまたは本機の故障の原因となる場合があります。その場合の故障は保証対象外ですので、ご了承ください。

本機に接続できるサーバは、DOS/V(PC/AT互換)機です。但し、下記のモニタコネクタを装備した機種です。それ以外の機種ではご使用になれません。

モニタコネクタ : Mini D-SUB 15Pコネクタ(メス)

高解像度や接続環境でのゴーストやジミ等の画質劣化は、モニタケーブルやビデオカードが影響している場合があります。また、ディスプレイとビデオカードの組合せによっては、正常に表示出来ない場合も有ります。ビデオカード等の接続環境を変更してみてください。

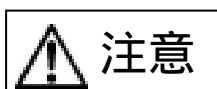
モニタケーブルのコネクタはMini D-SUB 15Pです。コネクタの向きを確認し、固定ネジで確実に固定してください。確実に接続されませんとトラブルの原因となります。

サーバ、KVM スイッチ等を制御するには別途キーボード・マウスが必要となります。ラックをより効率的に使用するにはキーボードドローア(FD-K000ATシリーズ)を推奨いたします。詳細はお買い求めの販売店にてご確認ください。

2.2 廃棄について

本装置は、金属、プラスチック部品および、液晶蛍光管の中には水銀を使用しています。廃棄するときは、各自治体の指示にしたがってください。

2.3 本装置の運搬



本装置を別の場所に運搬する際は、購入されたときに本装置が入っていた箱か、衝撃や振動から製品を保護できる箱を使用してください。運搬処理がすべて完了するまで、開梱しないでください。

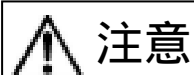
3 取り付け



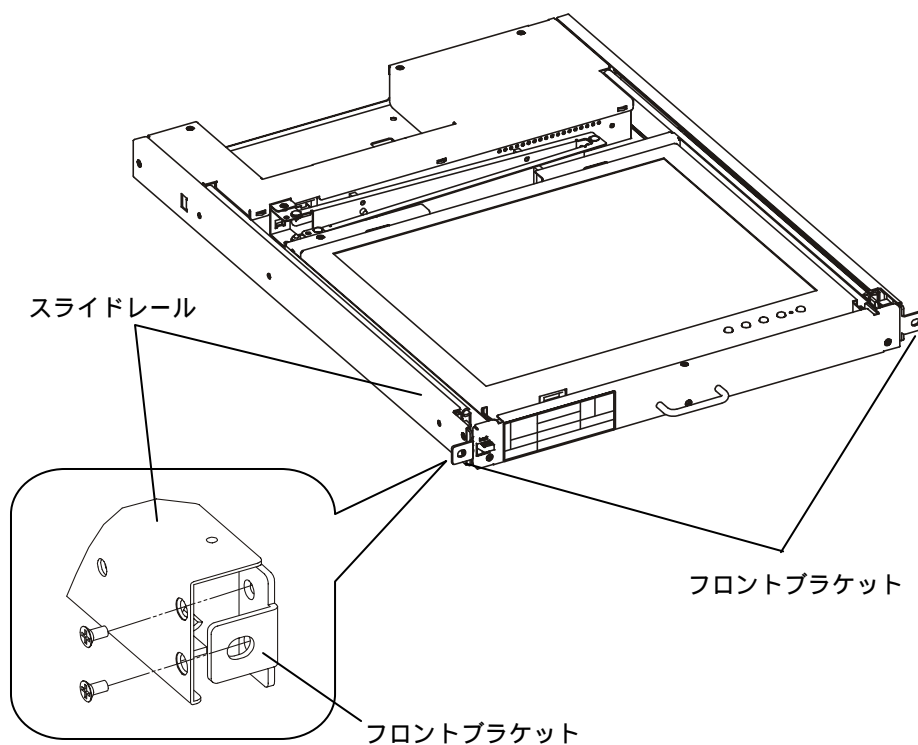
- ・取り付けの前に「重要なお知らせ」の安全情報をよく読んでください。
- ・設置環境を守ってご使用ください(「技術仕様」を参照してください)。ほこり、湿度、熱を避けてください。
- ・本製品は、重量が13kgありますので、必要の場合は、取り付けを2人以上でおこなってください。
- ・本装置とガイドレールの上に、指や手を挟まないように注意してください。

3.1 フロントブラケットの取り付け

本装置の前面左右の本体とスライドレール間にフロントブラケットを入れます。
スライドレールの外側から、2個のネジでフロントブラケットを固定します。



- ・ /W の場合は、フロントブラケットの形状が異なります。



フロントブラケットの取り付け図

3.2 ガイドレールの取り付け（タップありガイドレールの場合）

Point

- ・ガイドレールは、本製品が載せられるように、ガイドを前方、中側を向くように取り付けます。

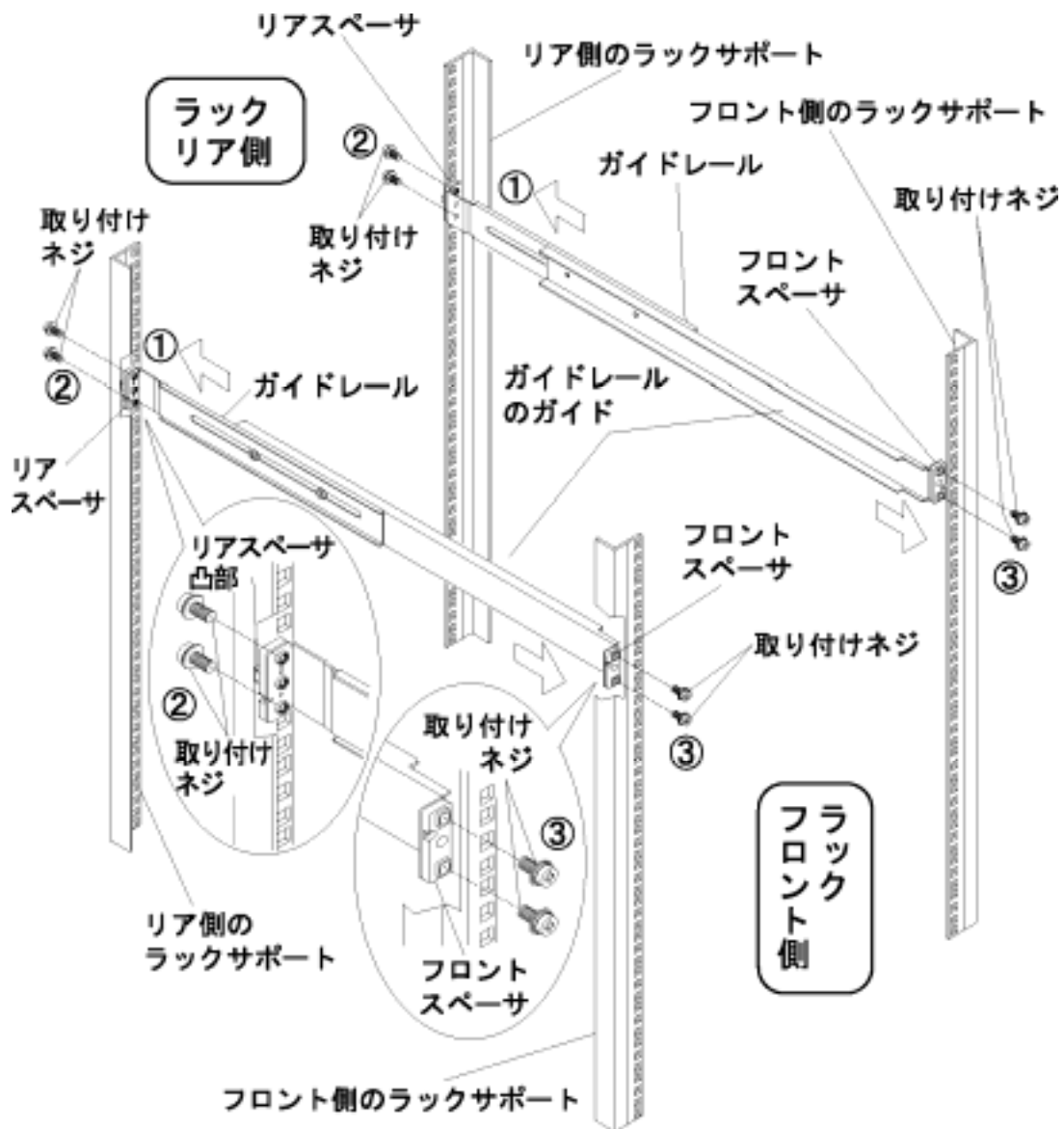
ガイドレールのリアスペーサ凸部をリア側のラックサポートの穴に入れます。

ラックサポート外側からリアスペーサ上下の穴を取り付けネジで固定します。

（左右ガイドレールの高さは同じにしてください）

フロント側のラックサポート内側にガイドレールを合わせて、上下の穴を取り付けネジで固定します。

他のガイドレール取り付けについては、ガイドレールに同梱されている取付説明書を参照ください。



タップがあるガイドレールの取り付け図

3.3 本製品の取り付け

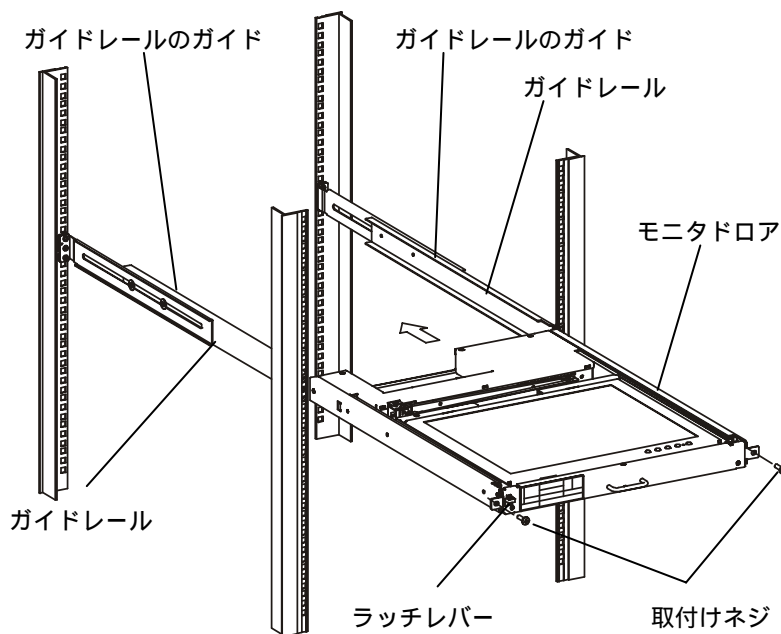


注意

- ・作業中にラッチレバーが解除されないように注意してください。ラッチレバーが解除されているとモニタドロアがスライドするおそれがあります。
- ・ガイドレールに本装置を取り付ける時は、2人以上で持って入れてください。電源ケーブルは接続しないでください。
- ・モニターケーブル長は本体背面から 1.8m です。サーバと接続できる位置をご確認のうえ、ガイドレール及び、本装置をラックに実装ください。

ガイドレール前方から本製品を入れます。

本製品が止まるまで押し込み、前面 2 カ所を取り付けネジで固定します。



モニタドロア取り付け図

3.4 4ポートKVMスイッチの組み込み

本装置に組み込み可能な4ポートKVMスイッチをお持ちでない場合は、14ページ「ケーブルの接続と取り外し」からお読みください。

なお、組み込み可能な4ポートKVMスイッチについては、お買い求めの販売店または弊社担当にご確認ください。4ポートKVMスイッチのコネクタ接続は、15ページ「ポートの接続」を参照してください。



注意

感電やショートのおそれがあるので、本装置の電源ケーブルが電源コンセントに接続されていないことを確かめてください。

落ちたり、倒れたりするとけがの原因になりますので、本装置はしっかりした机の上などで作業してください。

本装置内部には、高電圧を発生、蓄積する部分があります。本装置の蓋などをはずさないで、作業をおこなってください。

金属製のエッジ(端部)部で手などを切らないように注意してください。

内部に異物(金属片・水・液体など)が入らないように注意してください。

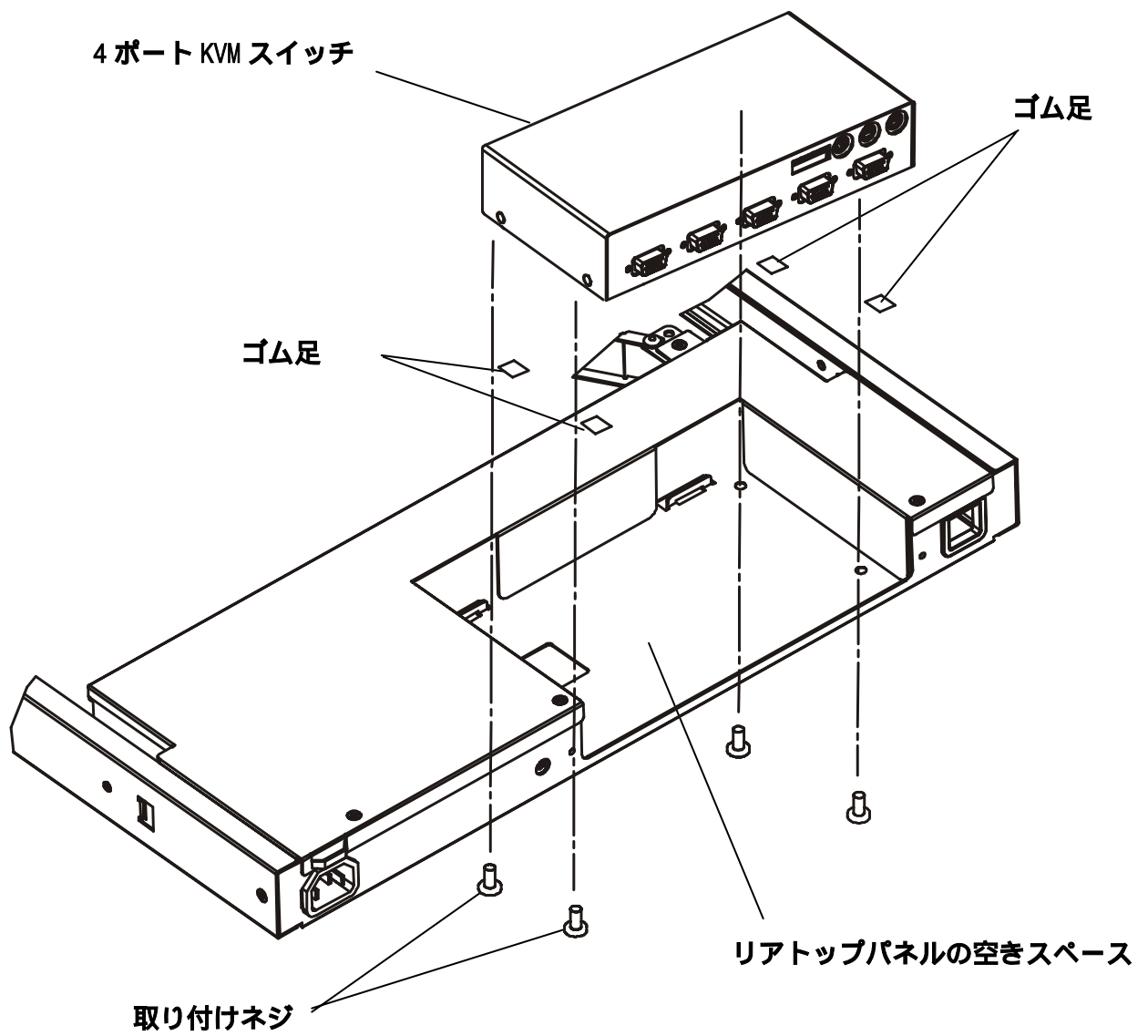
破損の原因になります。また、ケーブルキャリア等必要のない場所には力を加えないでください。破損を招くおそれがあります。4ポートKVMスイッチの取り付け作業は、本取扱説明書をよくお読みになり行ってください。

作業のために、+ドライバー(大・小)が必要になりますので、あらかじめご用意ください。

Point

4ポートKVMスイッチを取り付ける場合は、本装置を取り外して下さい。本装置の取り外し方は、9ページ「本製品の取り付け」の逆の順序でおこないます。

1. リアプレートに貼り付けられている取り付けネジを取り外します。
2. リアプレートの空きスペースに4ポートKVMスイッチの向きに注意して格納します。4ポートKVMスイッチの底面にゴム足が貼付されている場合は剥がしてから格納します。
3. 本装置の下側から、1.で取り外した取り付けネジ4本で、4ポートKVMスイッチを固定します。

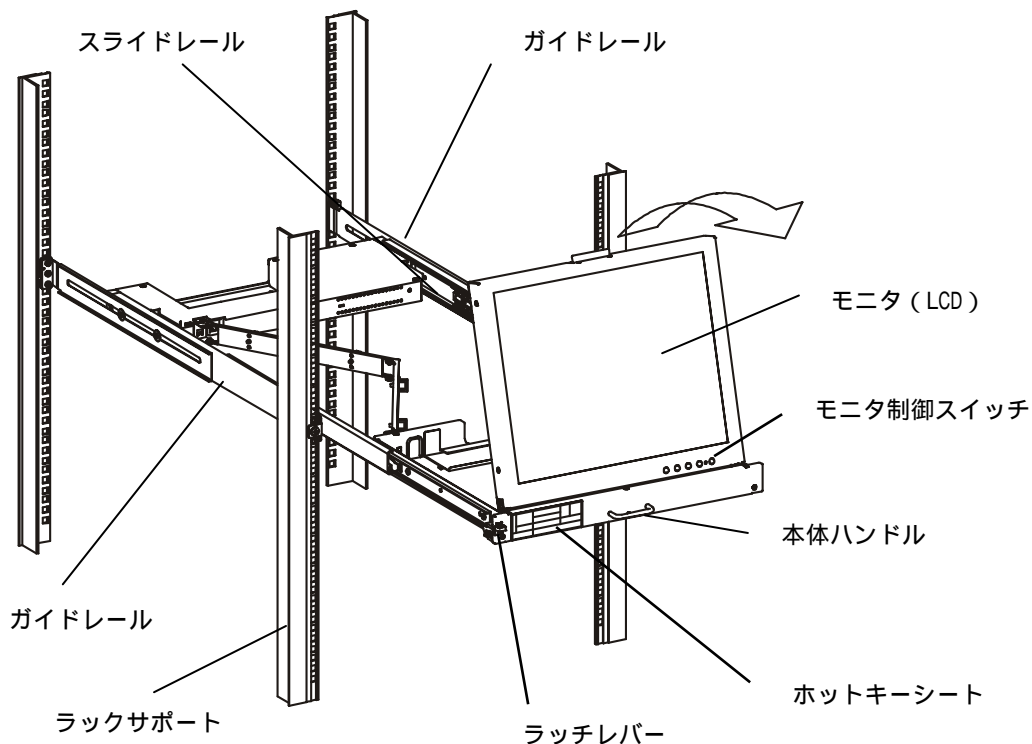


ゴム足が貼付されている場合は剥がす必要があります。

4ポート KVM スイッチ組み込み図

4. 各部の名称と働き

4.1 全体図



ラックサポート

ガイドレールを取り付けます。

ガイドレール

本体をラックに取り付けるためのガイドです。

スライドレール

本体をラックから引き出したり、格納する際、本体がスライドします。

モニタ

サーバの状態やモニタのOSDを表示します。

モニタ制御スイッチ

モニタの電源ボタンや調整用ボタンです。(次頁参照)

本体ハンドル

ラックから本体を引き出したり、格納するときに使います。

ラッチレバー

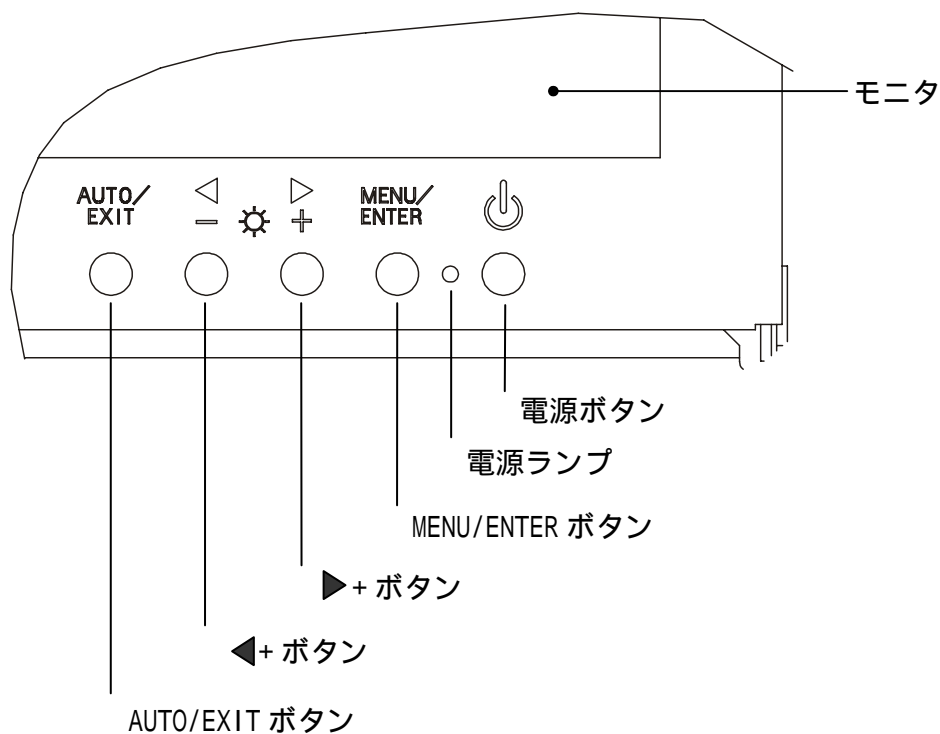
本体を引き出すときに押し下げます。

ホットキーシート

KVM スイッチ使用時、キーボードによるサーバ選択方法になります。

(詳細は 23 頁参照)

モニタ制御スイッチ



電源ボタン

モニタの電源を入れるときに押します。

また、電源が入っているときに押すとモニタのバックライトの電源が切れます。

電源ランプ

モニタの電源が入っているときに緑色に点灯し、省電力状態の時は橙色に点灯します。バックライトの電源が切れていると消灯します。

MENU/ENTER ボタン

メニュー画面の表示、調整項目の決定、設定値の保存する場合に押します。

▶ + ボタン

右方を選択するときや値を増やす方向に変化させる場合に押します。

◀ - ボタン

左方を選択するときや値を減らす方向に変化させる場合に押します。

AUTO/EXIT ボタン

メニュー画面の消去、調節項目の取り消し、設定値の取り消し、自動調節する場合に押します。

5. ケーブルの接続と取り外し



注意

- ・ ケーブルを接続する前に、本装置に関する説明書を読んでください。
 - ・ 添付されている電源ケーブルをご使用ください。
 - ・ 雷雨の時は、ケーブルを接続したり取り外さないでください。
 - ・ 取り外すときは、ケーブルではなく、プラグ部を持ってください。
 - ・ ケーブルの接続と取り外しは次の順序にしたがってください。
-

5.1 ケーブルの接続

影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜きます。

モニターケーブルをサーバに接続します。

電源ケーブルを本装置の電源ソケットに差し込みます。電源ケーブルが抜けないようにタイラップで結束します。（添付品の「ACケーブル抜け防止用タイラップ」をご使用ください）

電源ケーブルをラックの電源コンセントに差し込みます。

Point

- ・ モニタ用コネクタ（Mini D-SUB 15Pin）の接続は、固定ネジで確実にサーバに接続してください。
 - ・ 確実に接続されないと、画像が乱れることがあります。
-

5.2 ケーブルの取り外し

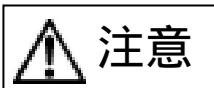
影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜いてから、各ケーブルを取り外してください。

5.3 4ポートKVMスイッチとの接続

(本装置後面に4ポートKVMスイッチがある場合)

KVMスイッチ、及びKVMスイッチに接続されたサーバを操作するには、キーボード・マウスが必要になります。

ラックをより効率的に使用するにはキーボードドロア (FD-K000ATシリーズ) を推奨いたします。詳細はお買い求めの販売店または弊社担当にご確認ください。



注意

各ポートの接続、取り外し時は 前頁に記載されている注意事項をよくお読みになり、各ポートが影響を受ける装置の電源を切っておこなってください。

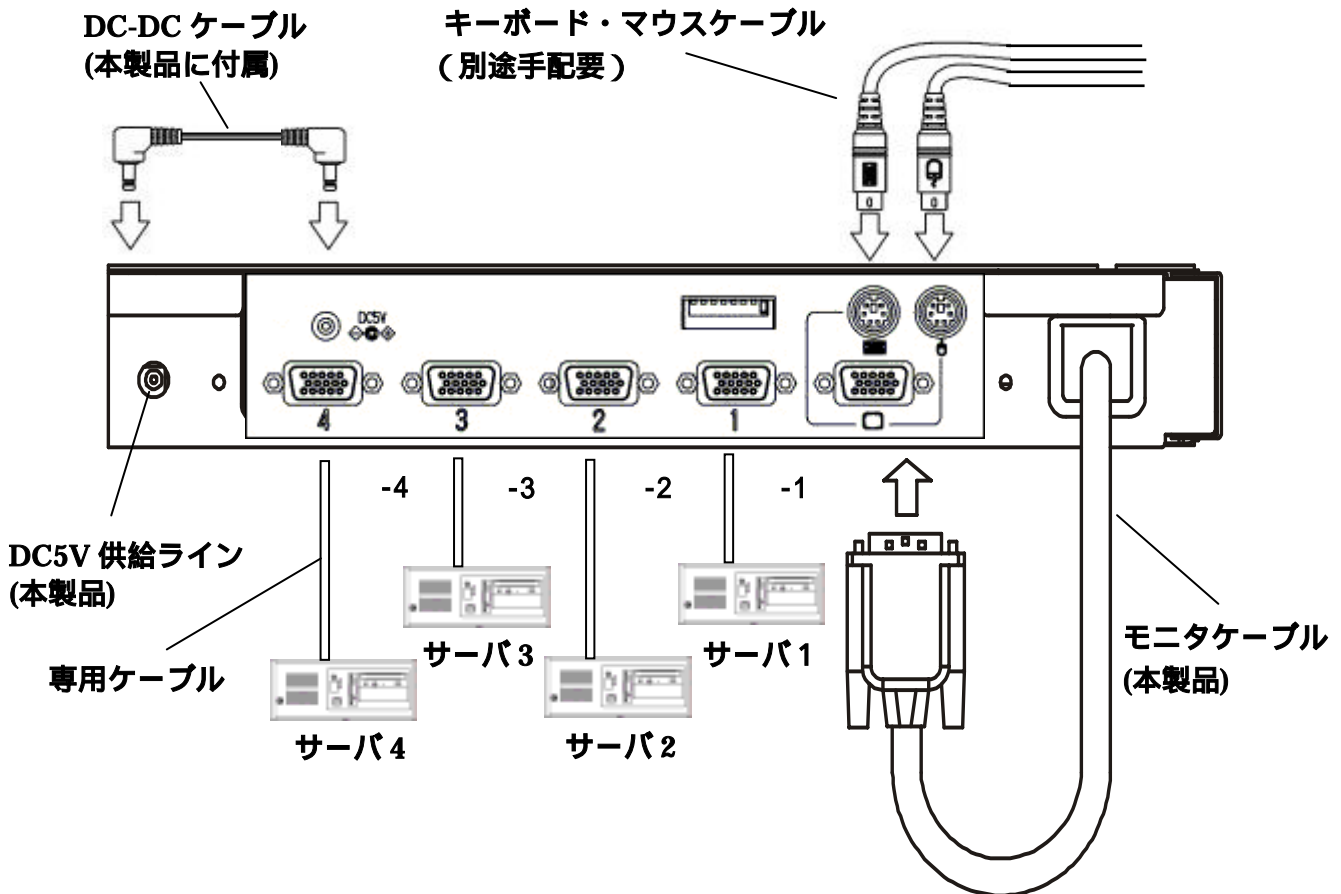
4ポートKVMスイッチの取扱説明書もあわせてよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

4台までのサーバが接続できます。

サーバのキーボードポート (PS/2、もしくはUSB)、マウスポート (PS/2、もしくはUSB)、モニターポート (VGA) と4ポートKVMスイッチのポートを専用ケーブルで接続します。

本装置のモニターケーブル、及びキーボードケーブル、マウスケーブル、をそれぞれKVMスイッチ CONSOLEのキーボード、マウス、モニターポートに接続します。

本製品に添付されているDC-DCケーブルを使用し、本装置の電源供給ラインと4ポートKVMスイッチを接続します。



4ポートKVMスイッチのケーブル接続図

6. 操作



- ・ 引き出した状態で完全なロックはかかりませんので、もたれ掛かると本製品は動いてしまいます。
 - ・ スライドモジュールの引き出し、押し込み時やモニタ部の開閉時などを実施する際には、手を挟まないよう十分注意して実施してください。
 - ・ 本製品を引き出して使用している場合に、強い力を加えると、ラック自体が転倒するおそれがありますので注意してください。
 - ・ モニタ画面を強く押したり、硬いものでこすったり、磁石などを近づけないでください。破損の原因になります。
 - ・ 本製品を引き出した状態では、本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。
 - ・ 本製品を使用しない場合や本製品以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本製品をラック内に格納することを推奨します。
-

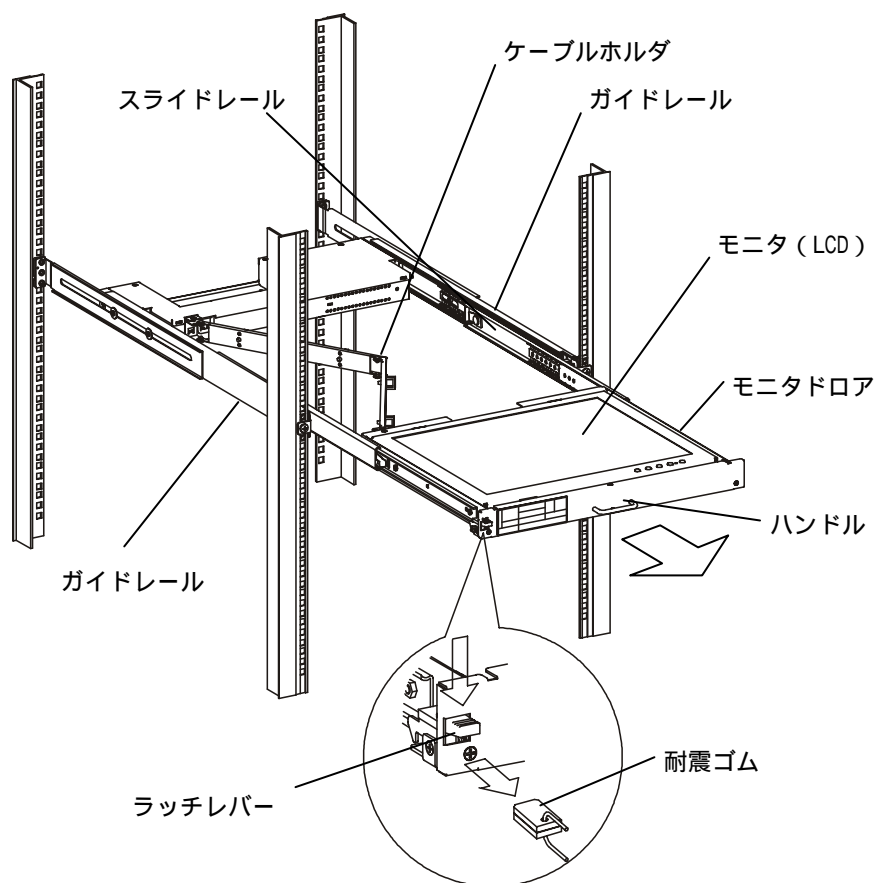
6.1 本製品の引き出し

耐震ゴムを引き抜いていない場合は、引き抜いてください。

モニタドロア前面左側のラッチレバーを押し下げ、ハンドルを持ってモニタドロアを一番手前まで引き出します。

Point

・本製品が、前面部 2 本の取り付けネジでラックに固定されていることを確認してから引き出してください。



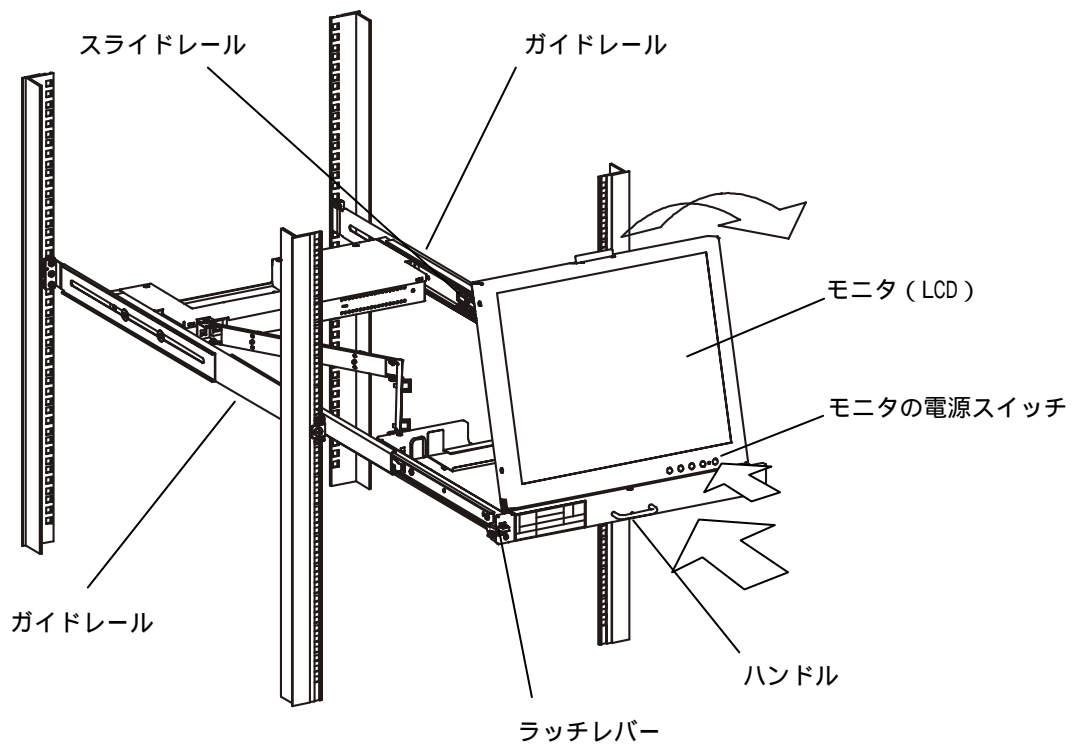
モニタドロアの引き出し図

モニタの上部を持ち、モニタを手前に引き起こします。
モニタは、完全に引き起こしてください。

操作しやすい位置までハンドルを持ち、軽く押し込んでください。
なお、その際はモニタ背面が上部の装置にぶつからないようご注意ください。

電源ボタンを押して、モニタの電源を入れます。

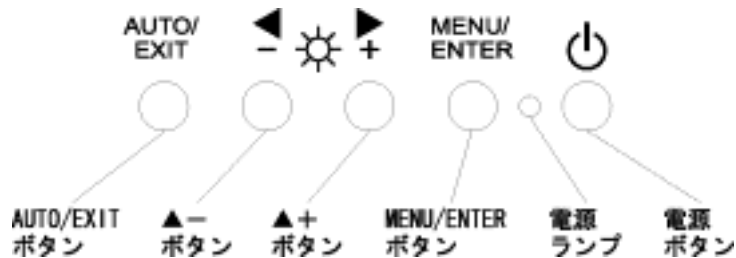
接続しているサーバの電源を入れます。



モニタ部開閉図


6.2 モニタの調整

モニタ部には、1つのLEDと5つのボタンがあります。



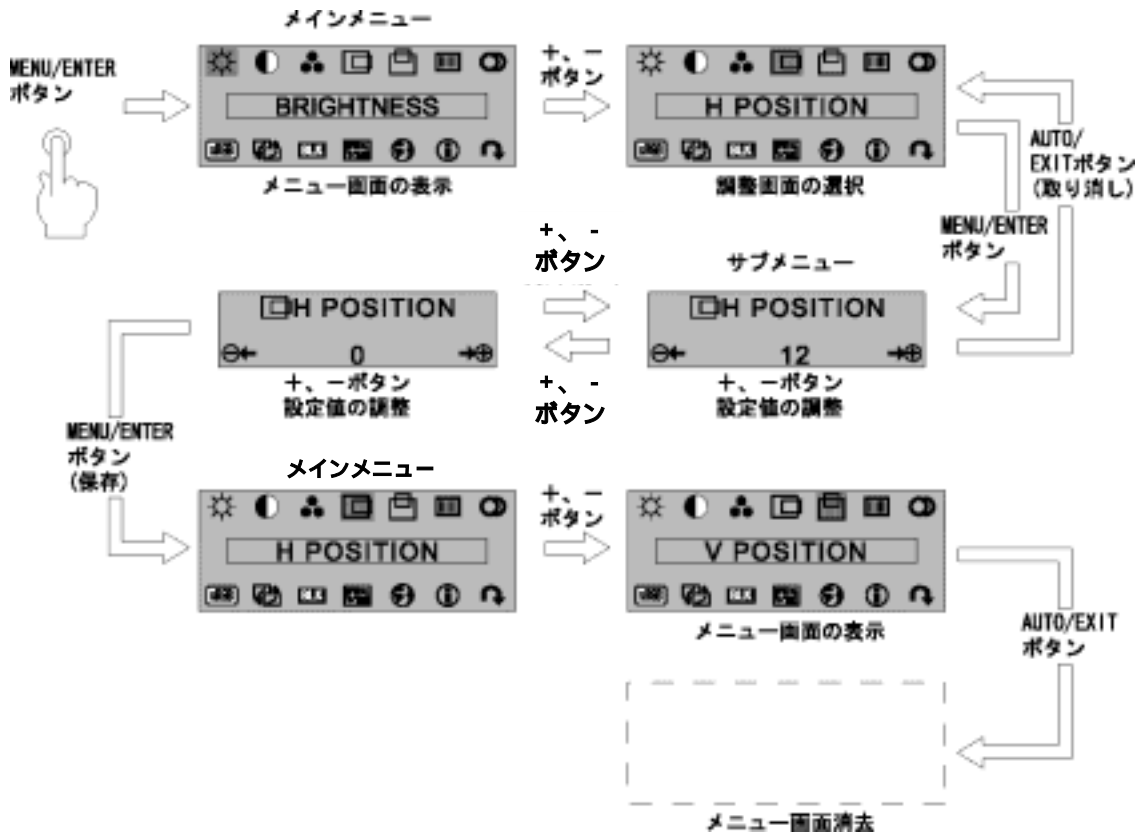
- 電源ボタン : モニタの電源を入れるときに押します。また、電源が入っているときに押すとモニタのバックライトの電源が切れます。
- 電源ランプ : モニタの電源が入っているときに緑色に点灯し、省電力状態のときは橙色に点灯します。バックライトの電源が切れていると消灯します。
- MENU/ENTER ボタン : メニュー画面の表示、調整項目の決定、設定値の保存する場合に押します。
- ▶+ ボタン : 右方を選択するときや値を増やす方向に変化させる場合に押します。
- ◀- ボタン : 左方を選択するときや値を減らす方向に変化させる場合に押します。
- AUTO/EXIT ボタン : メニュー画面の消去、調節項目の取り消し、設定値の取り消し、自動調節する場合に押します。

Point

- ・メニュー画面を表示させずに、▶+、◀- ボタンを押すと、画面の明るさ (BRIGHTNESS) を直接調整することができます。
 - ・メニュー画面を表示させずに、AUTO/EXIT ボタンを押すと、自動調整 (POSITION と FOCUS) をおこないます。
 - ・画面のノイズは、設定メニューの Phase および  Clock の調整で除去できます。
-

6.3 基本的な調整方法

モニタの画面調整は、モニタ画面（LCD画面）の下にあるボタンでおこないます。
基本的な調整手順を下記に示します。



MENU/ENTER ボタンを押します。

メインメニューが表示されます。

+、- ボタンを押して、メニュー（調整項目）を選びます。

ENTER ボタンを押します。

サブメニューが表示されます。

+、- ボタンを押して、設定値を調整します。

MENU/ENTER ボタンを押します。

設定値が保存され、メインメニューが表示されます。

+、- ボタンを押して、別のメニュー（調整項目）を選びます。

または

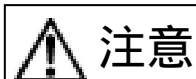
AUTO/EXIT ボタンを押して、メインメニュー画面を終了します。

メインメニューの項目（調整項目）を下表に示します。

記号	英語表示	調整内容
	BRIGHTNESS	画面全体の明るさを調整します。
	CONTRAST	画面全体の濃淡の強さ（コントラスト）を調整します。
	COLOR	画面の表示色を調整します。固定値の設定や赤/ 緑/ 青の色合いを個別に設定できます。
	H POSITION	表示位置を左右に調整します。
	V POSITION	表示位置を上下に調整します。
	CLOCK	帯状(縦)のノイズが発生する場合に調整します。
	FOCUS	文字のにじみや画面の水平方向のノイズが発生する場合に調整します。
	SRGB	sRGB のON/OFF の切り替えができます。
	PICTURE MODE	コントラストカーブの切り替えができます。中間調での表現を変えることができます。
	BLACK LEVEL	黒色のオフセット基準を任意に設定できます。
	TEXT MODE	DOS 画面表示時の解像度を設定できます。 英語DOS時は、720 × 400を選択してください。
	INFORMATION	現在表示されている解像度、垂直同期周波数および各種調整項目（一部を除く）の設定値を表示します。
	LANGUAGE	表示言語を変更します。
	RECALL	ご購入時の設定値に戻します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ READJUSTING 全項目に戻します。 ・ GEOMETRY 表示している解像度(モード)の画面位置、クロックおよびフォーカスを戻します。 ・ COLOR ブライツネス、コントラスト、黒レベル、およびカラー調整に戻します。

6.4 解像度とリフレッシュレート

解像度	水平周波数(kHz)	垂直周波数(Hz)	モード
640 × 400	31.5	70	VGA 400 LINE
640 × 480	31.5	60	VGA Standard
	37.5	75	VESA
	37.9	72	
720 × 400	31.5	70	
800 × 600	35.2	56	
	37.9	60	
	46.9	75	
	48.1	72	
1024 × 768	48.4	60	
	56.5	70	
	60.0	75	
1280 × 1024	64.0	60	
	80.0	75	
1152 × 900	61.9	66	Sun コンポジット
	71.8	76	
1280 × 1024	71.4	67	



注意

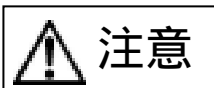
- ・電源投入直後やOS 起動時または終了時には画面の表示位置がずれたり、画面が点滅したり、乱れたりすることがありますが故障ではありませんのでそのままご使用ください。
- ・1280 × 1024以外の解像度もすべてフルスクリーン表示となります。
- ・1280 × 1024以外の解像度では、文字の輪郭がはっきり見えなかったり、細かなストライプの太さが揃わなかったりすることがあります。これは、擬似的に拡大表示（フルスクリーン表示）しているためであり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。
- ・画面上の一部に点灯しないドットや常時点灯するドットが存在する場合がありますが、液晶ディスプレイの特性であり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。

6.5 4ポートKVMスイッチをご使用の場合について

(本装置後面に4ポートKVMスイッチがある場合)

KVMスイッチに接続されているサーバを選択したい場合は、キーボードからの操作(ホットキーモード)が可能です、以下の3種類となります。

サーバ 選択	OSD選択	Ctrl + Alt + ⇧Shift	↑ PaUp + ↓ PaDn	↵ Enter
	ダイレクト選択	Scroll Lock × 2回連続押下	↑ PaUp + ↓ PaDn	↵ Enter
サーバ名 常時表示 モード ON/OFF		Ctrl × 2回連続押下	+ [Num Lock]	(数字KEY)
		⇧Shift + Scroll Lock × 2回連続押下		



注意

- ・ 4ポートKVMスイッチの取扱説明書もあわせてよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- ・ KVMスイッチが後面に搭載されるのでフロント部にあるセレクトスイッチ、リセットスイッチが隠れてしまい使用できなくなります。

LCDの表示に関する注意事項

複数のサーバで使用する場合、解像度とリフレッシュレート(垂直周波数)設定が同じでも画像の位置が違ふことがあります。これは、本装置が1種類のセットのみ記憶するためです。

別のサーバでのずれた表示を修正するには、次の設定を変更してください。

1. 画像が正しく表示されないサーバのリフレッシュレートを別の値に設定します。
2. 最適な画面表示をモニタのOSD機能で調整し、その設定を保存します。

一般に同一の解像度に対して複数のリフレッシュレートを設定できるため、画面に対して複数のオプションを利用できます。

6.6 本製品の格納

モニタを使用しない場合は、本製品をラックに格納することができます。

ハンドルを持って一旦一番手前まで引き出します。

モニタ部を閉じます。

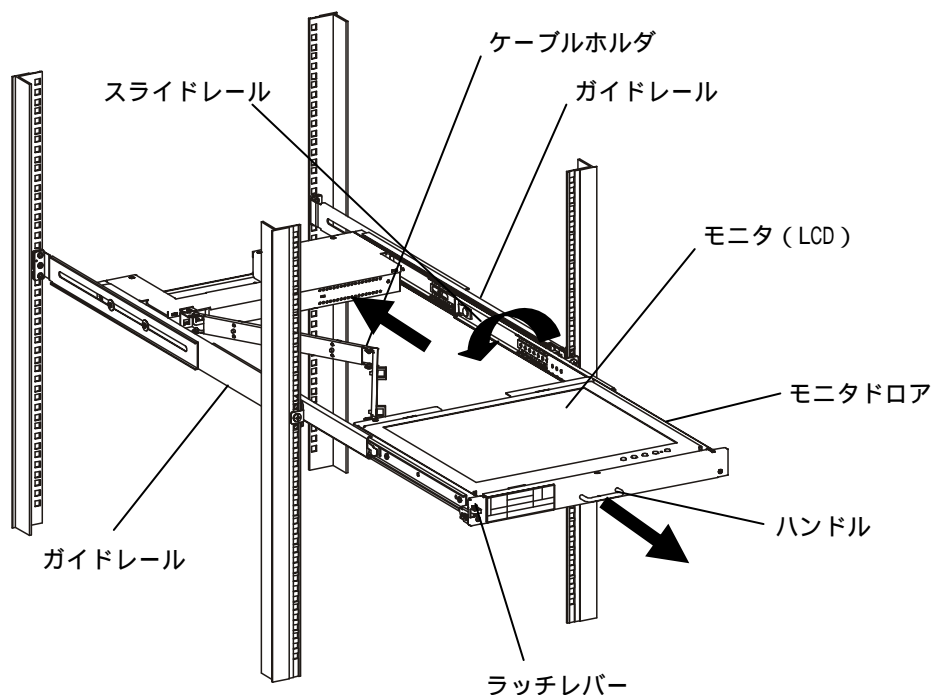
ハンドルを持って奥まで押し込みます。

ラッチレバーが掛かったことを確かめます。



注意

- ・本製品を格納する場合、ガイドレールやスライドレール、本製品本体に指や手を挟まないように注意してください。
- ・ラッチレバーが掛かっていないと、ラックを動かしたときに、本製品が出てくる可能性があります。



6.7 本装置のお手入れ



- ・お手入れをするときは、モニタの電源を切り、電源ソケットから電源プラグを抜いてください。
 - ・研磨剤を含む清掃剤や、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤、消毒用アルコールは使用しないでください。
 - ・水や洗剤、スプレー式のクリーナーを直接かけないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。
-

モニタドリア本体とモニタの筐体を乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときには、水にうすめた家庭用洗剤を浸したやわらかい布をよく絞って拭きとってください。ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

モニタ画面は、ガーゼなどの乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

7. 技術仕様

項目		仕様
型名		FD-M000AT、FD-M000AT/W
LED 表示		電源 LED (緑) 1
モ ニ タ	パネルタイプ	17 インチ TFT カラー液晶
	解像度	最大 水平 1280 (ドット) × 垂直 1024 (ライン)
	ドットピッチ	0.264 × 0.264mm
	リフレッシュレート	最大 75Hz
	ビデオ信号	アナログ RGB / セパレートシンク / コンポジットシンク
	表示色	最大 1,677 万色 (ディザリング)
	輝度	250cd/m ² (Typ)
	コネクタ	ミニ D-SUB 15 ピン (アナログ RGB)
電源電圧		AC100 ~ 240V
周波数		50/60Hz
定格電流		0.6A/100V , 0.32A/240V
消費電力		最大 35W モニタの電源 OFF 時 6.0W 以下
動作温度 (使用時)		5 ~ 35 (使用時の結露は避けてください。)
保存温度 (非動作時)		0 ~ 50
外 形 寸 法	(1)スライドレール縮小時	485mm(W) × 600mm(D) × 42mm(H)
	(2)スライドレール伸張時	485mm(W) × 1080mm(D) × 42mm(H)
	(3)(2) + モニタ 引き起こし時 リア突起部は、除く	485mm(W) × 1080mm(D) × 376mm(H)
構 造		金属ケース、塗装 (黒、アイボリー</W 品>)
質量		13kg

添付品	取扱説明書 (1 部) 保証書 (1 部) 100V 用電源ケーブル 2 m (1 本) 電源ケーブル抜け防止用タイラップ (1) フロントブラケット (2 個) フロントブラケット取り付けネジ (4 本) 4 ポート KVM スイッチ用 DC-DC ケーブル (1 本) 4 ポート KVM スイッチ用取付けネジ (4 本)
-----	--

ガイドレール（別売）

型 名	ラック取り付け穴	備 考
NC14003-T591	M6 タップ有り	M6 ネジ添付 前後からの取り付け
NC14003-T592	長穴タップなし	M5、M6 ネジ添付 前後からの取り付け
NC14003-T592/N	長穴タップなし	T592 + スパ - サ + 皿ネジ (M5) × 4 個 + M5 ネジ 2 本添付
NC14003-T593	長穴タップなし	M5、M6 ネジ 付 サイドからの取り付け
NC14003-T593/T	長穴タップなし	T593 (M6 ネジ 除) + ラック幅 485.4mm 対応品

8.トラブル対策

8.1 画面が表示されない

症 状	考えられる原因	対処方法
電源ランプが消灯している。	電源ケーブルが正しく接続されていない。または奥迄確実に接続されていない。	電源ケーブルを正しく奥まで確実に接続してください。
	電源ボタンが入っていない	電源ボタンを入れてください。
	電源ボタンを OFF した。電源ランプ(緑色)消灯	電源ボタンを ON する
	サーバからの画像信号がない(サスペンド状態)	サーバからの画像信号を入力する
電源ランプがオレンジ色に点灯している。またはMENU/ENTERボタンを押すと「POWER SAVING」のメッセージが表示される。	サーバがスタンバイ状態になっている。	キーボードのどれかのキーを押すかマウスを動かしてください。スタンバイ状態が解除されます。
	モニターケーブルがサーバ本体に、正しく接続されていない。	サーバ本体にモニターケーブルを正しく接続してください。
電源ランプが点灯するが、画面が表示されない。 場合によっては以下のメッセージも表示される。 「OUT OF RANGE H:***kHz V: H:***kHz SEE USER 'S MANUAL」 「NO SYNC SIGNAL SEE USER 'S MANUAL」	標準表示仕様以外の解像度とリフレッシュレートになっている。	サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度とリフレッシュレートに変更してください。
	サーバ本体より後に本製品の電源を入れた。	サーバ本体と同時またはそれ以前に本製品の電源を入れてください。
	モニターケーブルが、サーバ本体に正しく接続されていない。	サーバ本体にモニターケーブルを正しく接続してください。

8.2 画面調節ができない

症 状	考えられる原因	対処方法
AUTO/EXITボタンによる自動調整ができず、以下のメッセージが表示される。 「AUTO ADJUSTMENT FAILED SEE USE 'S MANUAL」	画面全体が極端に暗い色に設定された状態で自動調整が行われた。	表示画面全体を出来るだけ白画面にして、AUTO/EXITボタンを押して自動調整を行ってください。
「UNSUPPORTED MODE SEE USE 'S MANUAL」	標準表示仕様以外の解像度とリフレッシュレートになっている。	メニュー画面のインフォメーションにより、現在表示されている解像度とリフレッシュレートを確認し、サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度(モード)に変更してください。

8.3 画面がおかしい

症 状	考えられる原因	対処方法
格子状の表示画面がちらつく。	フォーカスが合っていない。	フォーカスを調整してください。
縦帯状の縞模様が見えることがある。	画面の調節が適切でない。	クロックの調整をしてからフォーカスの調整をしてください。
黒画面表示中に画面にノイズが見られる	サーバからのビデオ信号にノイズがある	OSDのBlack Levelを下げてください。
表示がはみ出る。 または、画面いっぱいに表示されない。	画面位置の調節が適切でない。	クロックの調整を行ったあとに画面位置の調整を行ってください。
	標準表示仕様以外の解像度(モード)になっている。	サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度(モード)に変更してください。
画面が消えることがある。	電源ケーブルが奥まで確実に接続されていない。	電源ケーブルを奥まで確実に接続してください。
文字の太さが場所によって異なる。	フォーカス、クロックの調整が適切でない。	クロックの調整をしてからフォーカスの調整をしてください。
	1280X1024より低い解像度になっている。	デジタル処理で擬似的に拡大処理しているので文字の太さが異なる場合があります。最適な画面するには「画面のプロパティ」で解像度を1280X1024に設定してください。
画質が劣化する (ゴーストや文字のニジミ等)	接続 / ケーブル不良	コネクタの接続を確認する 別ケーブルと交換し、問題が解決したら、良品ケーブルに交換する
切替えると画面がずれたり、表示できない	解像度が違う	解像度を合わせるか、モニタ側で調整する
	本装置以外のモニタ接続時のモニタ未対応 / 同期が取れない	対応 (マルチ) モニタにする モニタ側で調整する

モニタドドア [FD-M000AT、FD-M000AT/W]

取扱説明書

発行日 2005 年 12 月 第 1 版発行

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の
侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。

この説明書は再生紙を使用しています。

NC14004-L560_01_051219